

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2004/018809

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

Int.Cl⁷ F21V8/00, G02F1/13357, G02B6/00//F21Y101:02

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

Int.Cl⁷ F21V8/00, G02F1/13357, G02B6/00//F21Y101:02

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2005
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2005	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2005

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	JP 2002-124114 A (Yukadensi Co., Ltd., Mitsubishi Chemical Corp.), 26 April, 2002 (26.04.02), Page 3, right column, lines 44 to page 5, left column, lines 10; page 8, left column, line 33 to page 11, right column, line 2; Figs. 1, 7 & WO 02/5022 A1 & EP 1215526 A1 & US 2002/135996 A1	1, 4-6, 8-9

 Further documents are listed in the continuation of Box C. See patent family annex.

* Special categories of cited documents:	"T"	later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance	"X"	document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date	"Y"	document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)	"&"	document member of the same patent family
"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means		
"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed		

Date of the actual completion of the international search
14 March, 2005 (14.03.05)Date of mailing of the international search report
29 March, 2005 (29.03.05)Name and mailing address of the ISA/
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2004/018809

Continuation of Box No.III of continuation of first sheet(2)

Since claims 4, 5-9, 11 and 13 refer to independent claim 1, the matter common to claims 1, 4, 5-9, 11 and 13 is the features defined in the independent claim 1.

This common matter, however, is not novel since it is disclosed in document JP 2002-124114 A (Yukadenshi Co., Ltd., Mitsubishi Chemical Corp.), 26 April, 2002 (26.04.02), from page 3, right column, line 44 to page 5, left column, line 10, from page 8, left column, line 33 to page 11, right column, line 2, and Figs. 1 and 7. Consequently, this matter is not a special technical feature according to PCT Rule 13.2, second sentence, since it fails to define a contribution over the prior art.

Since claim 10 refers to claim 9, the matter common to claims 9 and 10 is the features defined in claim 9.

For the same reason stated above regarding claims 1, 4, 5-9, 11 and 13, this common matter cannot be a special technical feature since it is also disclosed in the above-mentioned document.

There is no common matter other than the matter common to claims 2-3 and 14-21 which can be considered as a special technical feature within the meaning of PCT Rule 13.2, second sentence.

Consequently, no technical relationship defined in PCT Rule 13.2 can be seen among the following eleven groups of inventions, and thus it appears that these inventions do not satisfy the requirement of unity of invention.

1. claim 1
2. claims 2-3, 14-21
3. claim 4
4. claim 5
5. claim 6
6. claim 7
7. claim 8
8. claim 9
9. claim 10
10. claims 11-12
11. claim 13

Since the international search having been carried out on claim 1 as the main invention also covers the inventions of claims 4-6 and 8-9 without any additional searching efforts, the inventions of claims 1, 4-6 and 8-9 are considered to be the invention first mentioned in the claims.

特許協力条約

PCT

国際調査報告

International Search Report

(法8条、法施行規則第40、41条)
〔PCT18条、PCT規則43、44〕

出願人又は代理人 JHTK-102 の書類記号 - PCT	今後の手続きについては、様式PCT/ISA/220 及び下記5を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP2004/018809	国際出願日 (日.月.年) 16.12.2004	優先日 (日.月.年) 19.12.2003
出願人(氏名又は名称) 日立化成工業株式会社		

国際調査機関が作成したこの国際調査報告を法施行規則第41条(PCT18条)の規定に従い出願人に送付する。
この写しは国際事務局にも送付される。

この国際調査報告は、全部で 4 ページである。

この調査報告に引用された先行技術文献の写しも添付されている。

1. 国際調査報告の基礎
 - a. 言語は、下記に示す場合を除くほか、この国際出願がされたものに基づき国際調査を行った。
 この国際調査機関に提出された国際出願の翻訳文に基づき国際調査を行った。
 - b. この国際出願は、ヌクレオチド又はアミノ酸配列を含んでいる(第I欄参照)。
2. 請求の範囲の一部の調査ができない(第II欄参照)。
3. 発明の単一性が欠如している(第III欄参照)。
4. 発明の名称は 出願人が提出したものと承認する。

次に示すように国際調査機関が作成した。

5. 要約は 出願人が提出したものと承認する。

第IV欄に示されているように、法施行規則第47条(PCT規則38.2(b))の規定により国際調査機関が作成した。出願人は、この国際調査報告の発送の日から1カ月以内にこの国際調査機関に意見を提出することができる。
6. 図面に関して
 - a. 要約書とともに公表される図は、
第 4 図とする。 出願人が示したとおりである。

出願人は図を示さなかったので、国際調査機関が選択した。

本図は発明の特徴を一層よく表しているので、国際調査機関が選択した。
 - b. 要約とともに公表される図はない。

第Ⅱ欄 請求の範囲の一部の調査ができないときの意見（第1ページの2の続き）

法第8条第3項（PCT17条(2)(a)）の規定により、この国際調査報告は次の理由により請求の範囲の一部について作成しなかった。

1. 請求の範囲 _____ は、この国際調査機関が調査をすることを要しない対象に係るものである。つまり、
2. 請求の範囲 _____ は、有意義な国際調査をすることができる程度まで所定の要件を満たしていない国際出願の部分に係るものである。つまり、
3. 請求の範囲 _____ は、従属請求の範囲であってPCT規則6.4(a)の第2文及び第3文の規定に従って記載されていない。

第Ⅲ欄 発明の単一性が欠如しているときの意見（第1ページの3の続き）

次に述べるようにこの国際出願に二以上の発明があるとこの国際調査機関は認めた。

第III欄の続きを参照。

1. 出願人が必要な追加調査手数料をすべて期間内に納付したので、この国際調査報告は、すべての調査可能な請求の範囲について作成した。
2. 追加調査手数料を要求するまでもなく、すべての調査可能な請求の範囲について調査することができたので、追加調査手数料の納付を求めなかった。
3. 出願人が必要な追加調査手数料を一部のみしか期間内に納付しなかったので、この国際調査報告は、手数料の納付のあった次の請求の範囲のみについて作成した。

4. 出願人が必要な追加調査手数料を期間内に納付しなかったので、この国際調査報告は、請求の範囲の最初に記載されている発明に係る次の請求の範囲について作成した。

1, 4-6, 8-9

追加調査手数料の異議の申立てに関する注意

追加調査手数料の納付と共に出願人から異議申立てがあった。
 追加調査手数料の納付と共に出願人から異議申立てがなかった。

A. 発明の属する分野の分類(国際特許分類(IPC))

Int. C1. 7 F21V8/00, G02F1/13357, G02B6/00
//F21Y101:02

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料(国際特許分類(IPC))

Int. C1. 7 F21V8/00, G02F1/13357, G02B6/00
//F21Y101:02

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1922-1996年
日本国公開実用新案公報	1971-2005年
日本国実用新案登録公報	1996-2005年
日本国登録実用新案公報	1994-2005年

国際調査で使用した電子データベース(データベースの名称、調査に使用した用語)

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
X	JP 2002-124114 A (油化電子株式会社、三菱化学株式会社) 2002.04.26, 第3ページ右欄第44行- 第5ページ左欄第10行、第8ページ左欄第33行- 第11ページ右欄第2行、図1, 7 &WO 02/5022 A1 &EP 1215526 A1 &US 2002/135996 A1	1, 4-6, 8-9

C欄の続きにも文献が列挙されている。

パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

- 「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
- 「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
- 「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献(理由を付す)
- 「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
- 「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

- 「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
- 「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
- 「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
- 「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

14. 03. 2005

国際調査報告の発送日

29.3.2005

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/JP)
郵便番号 100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官(権限のある職員)

山本 忠博

3 X 3225

電話番号 03-3581-1101 内線 3371

第III欄の続き

請求の範囲4, 5-9, 11及び13は、独立請求の範囲1を引用しているから、請求の範囲1, 4, 5-9, 11及び13に共通の事項は、独立請求の範囲1に記載された事項である。

しかしながら、当該共通事項は文献JP 2002-124114 A (油化電子株式会社、三菱化学株式会社), 2002.04.26, 第3ページ右欄第44行-第5ページ左欄第10行、第8ページ左欄第33行-第11ページ右欄第2行及び図1, 7に開示されているとおり、新規でないことが明らかである。結果として、当該事項は先行技術に対して行う貢献を明示していないから、PCT規則13.2の第2文に記載されたとおり、当該事項は特別な技術的特徴ではない。

請求の範囲10は、請求の範囲9を引用しているから、請求の範囲9-10に共通の事項は、請求の範囲9に記載された事項である。

しかしながら、当該事項は、前記の請求の範囲1, 4, 5-9, 11及び13での判断と同様、上記文献に開示されており、特別な技術的特徴ではない。

PCT規則13.2の第2文に記載された特別な技術的特徴と考えられる他の共通の事項は、請求の範囲2-3, 14-21に共通する事項以外に存在しない。

してみれば、以下に記載した11群の発明の間に、PCT規則13.2に記載された技術的な関係を見いだすことはできないから、これらの発明は単一性の要件を満たしていないことが明らかである。

1. 請求の範囲1
2. 請求の範囲2-3, 14-21
3. 請求の範囲4
4. 請求の範囲5
5. 請求の範囲6
6. 請求の範囲7
7. 請求の範囲8
8. 請求の範囲9
9. 請求の範囲10
10. 請求の範囲11-12
11. 請求の範囲13

なお、請求の範囲4-6, 8-9に係る発明は、主発明である請求の範囲1の調査を行うにあたり、まったく追加の調査を行うための努力を要しないものであるため、請求の範囲1, 4-6, 8-9に係る発明を請求の範囲に最初に記載されている発明とした。